

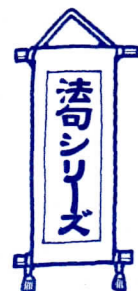
# 祐善寺だより

第4号

発刊日

2001年1月1日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡朝日町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



よくばらない

腹をたてない

ぐちをいわない

せめて正月の

三日ぐらいは

おれできるか

なあ

相田みつを



謹賀新世紀

住職 岡崎 賢

皆様には、お健やかに新しい世紀を迎えられたこととお慶び申し上げます。

景気も低迷し、世の中も不安定ですから、この新世紀に賭ける期待というものは、皆、ひとしおのようです。

顧みますと、過ぎし二十世紀は、第二次世界大戦の敗戦を境に、わが国は大きく変容したと言わねばなりません。世界大戦で幾万もの同朋の生命が犠牲になって、わが国民は、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」と、誓ったはずでした。戦後、めざましい復興を遂げ、経済が高度成長路線を走り、国民所得も増大して表向きの生活は戦前と比べ遥かに向上しましたが、それと引き換えに、わが国民は極めて大事なものを喪失してしまいました。

小学生の殺人や肉親をも殺すという凶悪な殺人事件の頻発、オウム真理教や法の華三法行を代表とするインチキ宗教の氾濫と犯罪、学校でのいじめや不登校等の教育現場の荒廃、バスジャックや新潟女性監禁事件にみられる若者の孤独化、

そして、眼を世界に向ければ、あちこちで戦火が鳴り響き内乱が勃発しているというように、二十世紀後半になって、まさに人間が人間によって滅ぼされるという危機感を強く感ぜずにはいられませんでした。

二十世紀は、まさに人間喪失の世紀であったと言わねばなりません。

今、こうして新世紀の幕開けに当たり、新世紀は、人間復興・人間復権の百年にしなければならぬと思うのは私ひとりではないでしょう。

人間復興が成し遂げられなければ、この人の世は、もうおしまいです。

「仏法広まれ、世の中安穩なれ」と呼びかけられた親鸞聖人の「御同朋御同行」の精神をしっかりと受け止め体得していくことこそ、新世紀の私共真宗門徒に与えられたテーマなのであります。

どうか、今年も教化事業に参画していただく中から、このテーマを共に聞信していただきたいと念願します。

二〇〇一年一月一日



# 報恩講盛大に厳修

平成十二年度の報恩講は、例年通り去る十一月二日に厳修されました。

当日は平日で、しかも朝からの雨模様で、参詣者も少ないのではないかと心配されましたが、百人を超える門信徒の方々に参詣いただき、厳かにお勤めできましたことを大変ありがたく思うものでございます。

毎年、報恩講をお勤めするには、たくさんのご門徒のご協力が不可欠です。

十月中旬の本堂の仏具磨き(写真①)から始まって、前日の諸々の準備(写真②)、そして当日、台所や帳場、本



写真① 報恩講に備えて入念に仏具みがき

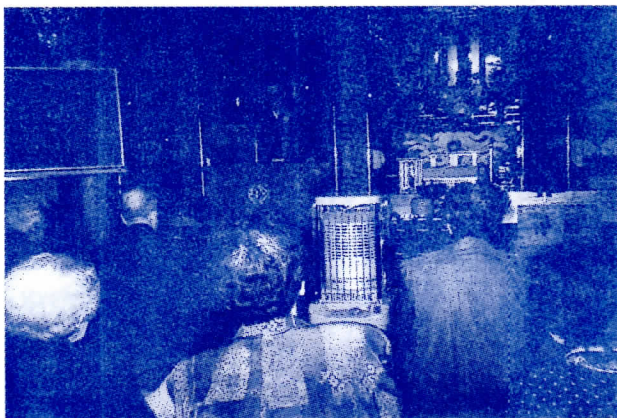


写真② 前日の御供物類の袋詰め作業

堂などで役割を分担していただいております。昔から、代々、受け継いでいただいているこの尊い営みこそ、大事にしていた、だきたいと願うばかりです。

今年も福井市南居町、陽願寺出雲路善嗣師に布教していただきましたが(写真③)、出雲路師は布教の中で、近年、御齋も弁当バックになっている寺が増えていることを嘆かれています。報恩講のお勤めの仕方が粗末になっているという事です。当寺はお蔭様で、ご門徒のご協力によって御齋も昔ながらに、しっかりと賄っていたいております。

報恩講にご協力いただきました役員の皆様、当番の皆様、ご参詣いただきました皆様、そして、護持費を納めていただいて財政面で支えて下さいましたご門徒の皆様、本当にありがとうございます。



写真③ 出雲路師の法話に聴き入る参詣者

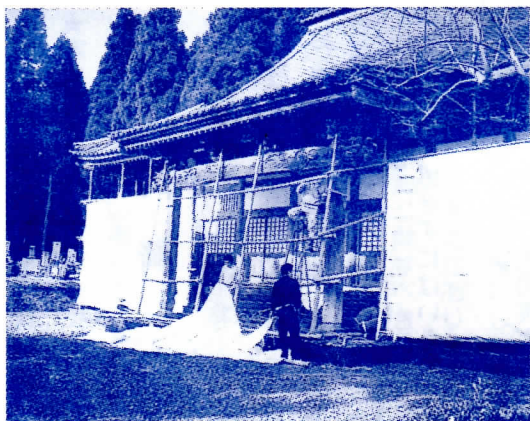
## 雪囲い作業も大変!

冬が近づきますと、本堂や庫裡、住宅の雪囲い作業が、毎年十一月最終日曜日に、森・杖立区のご門徒によって行われています。

今回は、小倉区からも役員さんが助っ人していただき、とても助かりました。本堂の雪囲いは高所での作業ゆえ、危険も伴いますが、段取りよく半日で作業は終了出来ました。

雪囲い作業の日は、しぐれる日も多いのですが、今回の作業日は晴天で暖かく、作業していただくご門徒さんには、好都合でした。

ご協力いただいた皆様、お疲れさまでした。



本堂の雪囲い作業は大変!



# 同朋会参加者感想文 その②

何かと忙しい毎日であるが月に一度の祐善寺同朋会に参加する事数回。皆さんと一緒にお経を習い、法話を勉強し楽しいひと時である。私はこの会がある事は以前から知っていた。しかし忙しいの一言で御縁がなかった。昨年の本山奉仕団に参加させてもらい佛法が身近に感じる様になりこの年齢になつてやっと少し自分が見えてきた。おろかな自分の心を養つてくれる同朋会、来年も又参加させていただきたい。

尚、今年の本山奉仕団での先生のお言葉に「命は命を食べて命をつなぐ」此の言葉を心の糧にしたい。

小倉 野村 明良

私は主人に勧められ、今年初めて同朋会に参加させていただきました。佛法のお話はむずかしく分かりにくいものですが、回を重ねるうちに少しずつ分かる様な気がします。

私にとつて一番の喜びは、毎日佛さまの前で主人と二人で嘆佛偈を唱える事です。朝の忙しいひと時ですが、短いお経なので毎日かかさず唱えています。

本当に良いお経を習えたと喜んでいきます。ありがとうございます。

小倉 野村須美恵

山の上にあるお寺「祐善寺様」は、

いつも変わりなく、訪れる私達を温かく迎え入れ、優しく包みこんでくれます。主人とともに初めておつとめ会に参加させていただいたのは、四年前の春だったと思います。主人の帰りを待ち食事をとる間もなく、糸生へと向かいました。赤い表紙のお経の本をいただき、いくつかのページに鉛筆で印をだし、勉強させていただきました。今年もその印のついた本を手に、主人のお姉さんと私は、毎月一回の会を心待ちにし、ごえん様のもと、同朋会の皆様とともに、心穏やかな時を、過ごさせていただきました。ごえん様、同朋会の皆様ありがとうございます。お姉さんと二人で大好きな主人のことを、いっぱいいっぱい語り合える幸せを嬉しく思っています。

「あなた、私は幸せな日々を送っていますよ」

糸生の自然の移り変わりを主人に伝えたくて、道端に咲いている草花を毎回持ち帰っています。

鯖江市 桑原 文子

春は名のみまだまだ寒い三月より、みよりの秋十月までの長い間をお寺様に伺わせていただき、皆様と御一緒させていただきながら正信偈のおつとめ練習の場に座らせていただきましたことを本当にありがとうございます。

今まで意味がわからずにいました正信偈の意味や帰命無量寿如来の横に書かれている点や付号等について御住職様よりこまやかでやさしい説明御指導をいただいたり、少しずつですがお経らしくおつとめが出来ようになり、心よりうれしく思っております。

又、お寺様にお伺いさせていただいたたびごとに、今は亡き両親や弟に会えて優しい笑顔で話しかけてもらえるような気持ちになれることが本當にうれしく、同時に御住職様より今日の日のあることを心からありがとうございます。この気持ちにさせていただくお言葉のかずから深く感謝致しております。これからも御指導いただけますようお願いいたします。ありがとうございます。

守山市 桑原 久枝

昔はこの家庭からもお念仏があふれていました、と「祐善寺だより」に書いてありましたが、たしかにそうでした。私達の幼い頃の祖母を思い出します。野良仕事をしながら道を歩き乍ら南無阿弥陀仏、朝はお早う南無阿弥陀仏、今日は南無阿弥陀仏、今晩は南無阿弥陀仏と口癖のように聞こえたものです。それに比べて今の私如きは朝夕にたった二回のお念仏がせいぜいです。社会全体の兇悪化、せめて身近な処からでも守りたい。今からでも遅くない。勿体ない、生かされているよるこびをと心はあせります。せめて一時なりともお念仏、おつとめの練習を

と有難い事です。三月第一日曜日から始めて下さるとの事、喜んで参加させて頂きました。御住職をはじめ御家族のお心配りの程、心から感謝申し上げます。もう十月第一日曜日にも終わりました。くり返しくり返しの御指導を頂き修了証とまではいきませんが、お盆、お彼岸の夕べは、正信偈念仏御和讃回向を上げさせて頂きました。何か変な調子で我流にもなり途中行きづまる事もあります。南無阿弥陀仏で終わらせて頂いて居ります。どうぞ皆様、朝のおつとめの会に御参加下さい。練習の後、今月の仏語カレンダーの御説明を頂きいろいろな意見を申し上げたり、最後の恩徳讃を唱和させて頂き、何とすがすがしい気持ちで帰らせて頂きます。

住職様には公職寺役と本當に大変お忙しい中、ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

おたよりの中に本山御奉仕に参加された方々の云い表せない感動、お一人お一人のお気持がにじみ出ています。私も前々回参加させて頂き御本山の偉大さ、古きからの宗教の尊さにただ有難く涙した事を思い出されます。是非もう一度と願っています。身勝手さで参加させて頂けなく残念でなりません。どうぞ尊い体験を生かし祐善寺同朋会の発展にお励み下さいます事を念じ上げます。

西田中 上野みよ子



# 感謝の気持ちで

長崎県大村市 島 信行

子供心にわが父「阿惟」の読経は素晴らしいと感じていた。その父が真冬の寒い夜、わが家で近所の人達に対して、「正信偈」を教えた時期があった。部屋には小さな炭火だけが暖房で、寒さが身にしみた。そうした中で、近所の人達は懸命に父の指導を受けていた。父の指示で小学生低学年であった私は、弟とともにその練習に加わった。わが子だからといって、手を緩めない父は、我々兄弟にも極めて厳しかった。しかしながら、そのお陰で今でも「正信偈」だけは殆ど記憶しており、父母の命日などに唱えることとしている。

さて、そのような私が、昭和三十三年に住み慣れた森の地を離れ、海上自衛隊に入隊した。厳しい訓練を受け、夜就寝時に蒸気機関車が発する汽笛の音に故郷を思い出し、涙ぐんだのもつい先日の様に思い出される。昭和四十年幹部に昇任後、大型哨戒機の操縦士としての道を選んだ。空を飛ぶことは決して安全なことではない。何回となく生死を賭ける危険な状態に遭遇したが、その都度大きな力に助けられて、約六、〇〇〇時間を無事飛び続けるこ

とができた。その間、飛行隊長、航空隊司令などの重要配置を無事終え、平成四年に大村市に所在する第二十二航空群司令として着任した。そして、一年後の平成五年暮れに、地元から自衛隊を退職し、商工会議所専務理事への就任を要請された。定年前の身であり、自衛隊への未練、専務理事としての期待と不安が交錯する中、地元から請われる幸せを噛みしめつつ、平成六年四月、三十五年余にわたる自衛隊生活に終止符を打ち、海将補で退官した。

約一、〇〇〇名の隊員の見送りを受け、部隊の正門を後にし、その足で商工会議所に着任した。慣れない商工業に関する職場であったが、前向きに勤務するとともに、役員、会員そして事務局職員の絶大なる支援を得ながら、楽しい四年半が過ぎた。勤務が軌道に乗った頃、今度は市長から助役としての就任を要請された。私にとって正に「晴天のへきれき」であったが、自身を試すつもりで引き受けることにした。

大村市は、自然環境に恵まれた人口八万五千人の中核都市で、長崎県のほぼ中央に位置し、世界初の海上空港を

有し、市の中心に高速道路のインターチェンジが位置する交通の要衝となっている。企業誘致が順調に進み、市の人口は毎年約一、二〇〇人が増加し続けている。

行政についても、商工会議所同様未知の世界であったが、助役として部長始め職員の全面的な協力を得て、市長を補佐しつつ、楽しくかつ充実した毎日を過ごさせていた、だいている。

このように、私のこれまでの人生を振り返ると、それぞれの仕事、それぞれの配置で多くの方々のお世話になり、極めて順調に過ごすことができた。あらためて、ご指導いただいたすべての方々に心から感謝を申し上げたい。そして、故郷森で過ごした子供の頃の生活を原点として、今後とも慢心することなく謙虚に、常に感謝の気持ちを忘れずに、社会のために貢献したいと考えている。

大村市助役の島信行様に、原稿をいただきました。ありがとうございます。ごさいました。

(住職)

## 平成十三年度



- 百回忌 明治三十五年没
- 五十回忌 昭和二十七年没
- 三十三回忌 昭和四十四年没
- 二十五回忌 昭和五十二年没
- 十七回忌 昭和六十年没
- 十三回忌 平成元年没
- 七回忌 平成七年没
- 三回忌 平成十一年没
- 一周忌 平成十二年没

本年度の年忌は右の通りでございますので、貴家の過去帳をお確かめの上、または、寺のほうへお問い合わせのうえ、かけがえのないご先祖の年忌を是非お勤め下さいますようお願いいたします。



## 平成12年度祐善寺一般会計収支決算書

**【収入の部】**

〈平成12年12月20日〆切〉

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	説 明
前年度繰越金	296,258	296,258	0	
門徒護持費	720,000	779,000	59,000	
門徒懇志	50,000	29,000	△ 21,000	
信徒懇志	300,000	321,000	21,000	報恩講信徒ご懇志
賽銭	70,000	89,138	19,138	本堂賽銭箱(45,334円) 報恩講賽銭(43,804円)
寄進金	50,000	149,184	99,184	本堂等借用礼7万円(清水哲雄) 銀杏売上他(79,184円)
墓地永代使用料	60,000	210,000	150,000	松島正治(5万円) 桑原九右エ門(10万) 桑原徹浩(6万)
貯金利子	1,000	340	△ 660	郵便局普通貯金利子
合 計	1,547,258	1,873,920	326,662	

**【支出の部】**

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	説 明
<b>事業費</b>				
報恩講厳修費	500,000	597,900	97,900	法礼等313,000円
本山奉仕団補助	70,000	70,000	0	他に参加者志10,000円 住職負担67,008円
仏具等修復費	50,000	0	△ 50,000	
祐善寺だより発行補助	45,000	60,000	15,000	20,000円×3回(住職負担81,750円)
<b>賦課金</b>				
本山相続講	150,000	165,000	15,000	
本山蓮如上人御遠忌懇志	0	0	0	
宗費教区費等賦課金	120,000	123,700	3,700	宗費・教区費・組費
<b>会議費</b>	20,000	14,175	△ 5,825	役員会
<b>施設管理費</b>				
環境整備・雪囲い経費	50,000	34,965	△ 15,035	寺外回り環境整備・雪囲い
屋根保全・補修費	40,000	0	△ 40,000	
本山火災保険料	100,000	100,000	0	本山第二種共済・保険金額1億円
<b>積立金</b>	300,000	300,000	0	蓮如上人五百回御遠忌準備積立他
<b>予備費</b>	80,000	25,935	△ 54,065	竹のす10本
次年度繰越金	22,258	382,245	359,987	
合 計	1,547,258	1,873,920	326,662	

### 平成12年度祐善寺特別会計決算書

月 日	科 目	収 入	支 出	残 高
1-2	前年度繰越金			679,795
8-19	普通預金利子	358		680,153
12-11	庫裡火災共済掛金		82,400	597,753
				↓次年度繰越

### 祐善寺積立金会計

平成10年度積立金	400,000円	(郵便局定額貯金)
平成11年度積立金	400,000円	(郵便局定額貯金)
平成12年度積立金	300,000円	(郵便局定額貯金)
合 計 1,100,000円		

### 監 査 報 告

平成12年度祐善寺一般会計、ならびに平成12年度祐善寺特別会計の決算書についてその内容及び収支に関し、関係諸帳簿を厳密に監査した結果、適正であることを認めます。

平成12年12月23日

監 事 野 村 明 良

## 平成13年度祐善寺年間事業計画

1月1日(月) お年頭	9月23日(日) 彼岸会 (午後2時より) 法話・住職
1月2日(火) 門徒総会 (兼お年頭)	10月7日(日) 同朋会 (午前8時30分より)
3月4日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	11月2日(金) 報恩講 布教・出雲路師
3月20日(火) 彼岸会 (午後2時より) 法話・住職	11月25日(日) 雪囲い
4月1日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	11月28日(水) 御正忌 (午後2時より)
5月6日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	12月31日(月) 除夜の鐘 (午後11時45分より)
6月3日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	
6月24日(日) 蓮如上人御忌 (午後2時より)	
	布教・朝倉師
7月1日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	
7月29日(日) 環境整備の日 (草刈作業)	
8月5日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	
8月7日(火) 永代経会 布教・大門師	
9月2日(日) 同朋会 (午前8時30分より)	

## ◇本山上山奉仕団◇

ご希望の方は、お申し出ください。

是非ご参詣下さいますように!

## 平成13年度祐善寺一般会計収支予算書

## 【収入の部】

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	説 明
前年度繰越金	382,245	296,258	85,987	
門徒護持費	720,000	720,000	0	
門徒懇志	50,000	50,000	0	
信徒懇志	300,000	300,000	0	報恩講信徒御懇志
賽銭	70,000	70,000	0	本堂賽銭箱および報恩講賽銭
寄進金	50,000	50,000	0	道具借用礼ほか
墓地永代使用料	60,000	60,000	0	
貯金利子	1,000	1,000	0	郵便局普通貯金利子
合 計	1,633,245	1,547,258	85,987	

## 【支出の部】

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	説 明
事業費				
報恩講殿修費	500,000	500,000	0	
本山奉仕団補助	0	70,000	△ 70,000	
仏具等修復費	50,000	50,000	0	
祐善寺だより発行補助	60,000	45,000	15,000	20,000円×3回
賦課金				
本山相続講	150,000	150,000	0	御依頼額 420,000
宗費教区費等賦課金	120,000	120,000	0	宗費・教区費・組費
会議費	45,000	20,000	25,000	
施設管理費				
環境整備・雪囲い経費	50,000	50,000	0	寺外回り環境整備・雪囲い
屋根保全・補修費	40,000	40,000	0	
本堂火災保険料	100,000	100,000	0	本山第二種共済。保険金額1億円
作業奉仕保険料	28,500	0	28,500	950円×30人
積立金	350,000	300,000	50,000	蓮如上人五百回御遠忌準備積立他
予備費	80,000	80,000	0	
次年度繰越金	59,745	22,258	37,487	
合 計	1,633,245	1,547,258	85,987	

※蓮如上人五百回御遠忌関係の予算は、後日、役員会を経て正式に報告させていただきます。



# 第4回

# 正信偈講座

釈迦如来楞伽山

お釈迦様は、楞伽山において

為衆告命南天竺

人々に次のように予言されました。南インドに

龍樹大士出於世

龍樹という偉大な人物があらわれて

悉能摧破有無見

有と無という二つの極端な考え方の誤りを打ち砕き

宣説大乘無上法

大乘佛教の、この上なき教えを説き広めて

証歡喜地生安樂

不退転の位を得て、安樂浄土に生まれるであろう、と

顯示難行陸路苦

浄土に生まれるについて、自力難行は陸路を行く労苦を伴うが

信樂易行水道樂

他力易行は、水上を舟で行くようにやさしく楽しいことを示しました。

憶念弥陀佛本願

阿弥陀様の本願を心から信ずる者は

自然即時入必定

その時、すぐに本願力によって、不退の地位に達することができるのです。

唯能常称如来号

だから、ただ、ひたすらに南無阿弥陀佛の名号をとなえること

応報大悲弘誓恩

そのことが、阿弥陀様の佛恩に報いることになるのです。

## 宗教界余話

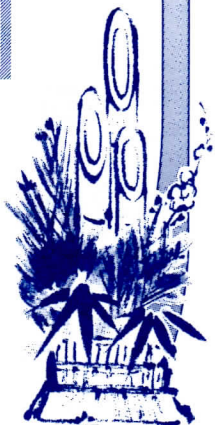
ドイツの経済学者マルクスが「宗教は民衆の阿片（麻薬という意味）である」といったのは、あまりにも有名であるが、近年のオカルト宗教が犯している犯罪をみると、まさに、インチキ宗教という麻薬に酔いしれた信者が、教祖、いや、「凶祖」に盲目的に服従し、考えられないような非人間的な犯罪を犯しているのである。

それにしても、刑務所じゃあるまいに、番人が立っていて出入り者を厳しくチェックしているインチキ宗教施設がこの福井県の某所にあるが、その中で何が行われているかは、推して知るべしである。釈尊の時代から、仏教は広く民衆に公開されていたことを、インチキのヤカラは、どう捉えているのか。しかし、本当に、そのようなインチキ宗教に毒されて、マルクスの言葉を借りるならば、インチキ宗教という「阿片」に酔わされて、私財をも惜しみもなく捧げて行く信者は、どうみても被害者ではない、と言わざるを得ない。

信者の皆さんよ、どうか、そんなインチキ宗教の犯罪性に気づき、一日も早く、勇気をもってインチキ宗教から脱けてほしい。



# お知らせ



## 祐善寺同朋会へのお誘い

左記の通り同朋会（どうぼうかい）を開催します。ご家族お誘い合わせのうえ、是非ご参加ください。

〈実施月〉三月〜十月

〈実施曜日〉第一日曜日

〈時間〉午前八時三十分〜十時

〈内容〉正信偈のおつとめの練習

お文（ふみ）の練習

日頃感じていることの話し合い

〈持ち物〉勤行本 念珠

三月四日より始まります。  
お待ちしております。

## ラジオ放送 『東本願寺の時間』

- ・福井放送（FBC）
- ・毎週日曜日
- ・午前7時30分〜7時40分

日曜日の朝は、FBCラジオの「東本願寺の時間」から始まります。

## 彼岸会

と き：3月20日  
午後2時〜

勤行：正信偈  
法話：住職

## 入門 介護保険④

介護保険がスタートして6カ月経って、昨年11月から介護保険料の徴収が始まりました。今回は、介護保険料について

介護保険の被保険者（40歳以上の人は、毎月、一定額の保険料を支払わなければなりません。しかし、保険料は収入や居住地等によって異なります。

65歳以上の場合、市町村によって保険料の基準額がかなり違ってきます。介護保険施設の普及率や65歳以上の人口比率の高い市町村ほど、保険料は高くなります。また、所得が低い人の保険料負担が重くならないよう、本人や世帯の所得によって保険料に差があります。

ただし、軽減措置により、本年9月までは、本来の保険料の半額が徴収されます。

また、40歳以上64歳の人の保険料は、医療保険の保険料に乗せする形で一緒に徴収されます。保険料の金額や計算方法等は、加入している医療保険によって異なります。保険料は、事業者と被保険者によって折半されます。

介護保険は強制加入ですので、40歳以上の人は、全員保険料を納めなければなりません。

## 編集

## 後記

★皆様、新年あけましておめでとうございませう。今年は、新世紀の幕開けというところで、世間は大変な騒ぎようですが、それも長引く景気の低迷から世紀が変わることで脱け出たいという期待の表れなのでしょう。本当に景気も上向いて欲しいですね。

★今号には、門徒総会の資料を兼ねて、十二年度一般会計決算報告や十三年度教化事業計画、一般会計予算等を載せさせていただきます。他の寺では予算や決算の報告をしているところを聞いたことがない、と言われている人がいますが、私は皆様からいただく護持費等の使途を明確にして報告するべきであるとの考えがありますし、寺も積極的に情報公開すべきであるとの考えもあります。まさに、この「祐善寺だより」も情報発信の手段として、位置付けています。どうか、皆様もこの「祐善寺だより」にお便りください。  
★今年も、また、よろしくご支援下さいますようお願い申し上げます。  
★寒さ厳しき折り、皆様、くれぐれも御身ご自愛下さいませう。